



一般社団法人 日本土壤肥料学会 2017年度（第40回）通常総会

[2017年4月16日（日）13時00分～14時10分 東京大学山上会館]

次 第

開会

会長挨拶

議長選出

議 事

第1号議案 2016年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

第2号議案 2017年度事業計画案および収支予算案

第3号議案 役員の新任・退任

第4号議案 名誉会員の推薦

第5号議案 総会議事録署名人の選任

その他 2017年度年次大会（仙台）の開催について
新会長挨拶

閉 会

一般社団法人 日本土壌肥料学会 2017 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2016 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2016 (平成 28) 年度事業報告 (平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壌肥料学雑誌 (会誌) は、第 87 巻第 2 号～6 号、第 88 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 15 編、ノート 14 編、技術レポート 9 編、講座 9 編、解説 4 編、総説 1 編、資料・国内外情報 20 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 2 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.62 掲載論文要旨、合計 482 頁、ほかに第 87 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壌教育活動だよりを含む) 等。
- 2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (欧文誌) は、Vol.62, No.2～No.5-6 (合併号) および Vol.63, No.1 の計 5 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 61 編、短報 5 編、総説 1 編、会誌報文抄録等、合計 573 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 9、正会員 340 (うち海外 24)、学生会員 70 (うち留学生 66)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 21 等であった。
- 3) 日本土壌肥料学会講演要旨集 (第 62 集、300 頁) を 2016 年度佐賀大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

学会編シンポジウムシリーズとして、「土壌における界面電気現象と農業・環境～基礎から応用まで～」を博友社より出版した。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

4 月 4 日、通常総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマを「東日本大震災被災地の農業再生を支える対策技術研究の貢献と課題—5 年後の現状認識—」とし、講演者と演題は伊藤豊彰氏「津波被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」および信濃卓郎氏「原発事故被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」であった。なお、本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

(2) 2016 年度年次大会等

- 1) 9月20日(火)～22日(木)、佐賀大学本庄キャンパスおよび佐賀市文化会館において年次大会を開催した。口頭発表は325課題、ポスター発表は209課題、合計534課題であった。大会への参加者数は803名であった。
- 2) シンポジウムは、公募による7つのテーマのシンポジウムと公開シンポジウム及び大会運営委員会企画による公開シンポジウムを実施した。
 - 2部門：黒ボク土の再考－最新の知見と今後の展望－
 - 4部門：熱帯アジア地域の問題土壌と農業生産
 - 6部門：水田土壌養分動態と温室効果ガス排出からみた冬期湛水の意義
 - 7部門：混合堆肥複合肥料の開発とこれから
 - 8部門：水稻におけるヒ素とカドミウムをめぐる諸問題
 - 9部門：国際土壌年2015から国際土壌の10年へ公開シンポジウム：事故から5年－農業環境・農作物・農業経済の変遷と課題－
公開シンポジウム：堆肥の活用と土作りでまちづくり
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
 - 3部門：バイオ肥料微生物を用いたイネの収量増とそのメカニズム解析
- 4) 佐賀市文化会館において、以下の講演が行われた(9/21)。
 - 第61回日本土壌肥料学会賞受賞者
 - ・神山和則：土壌情報システムを利用した農業生態系の評価に関する研究
 - ・中西啓仁：イネの鉄栄養研究から出発したカドミウム吸収関連遺伝子群の発見と低カドミウム米開発への貢献
 - ・渡邊 彰：土壌有機物の化学構造と動態に関する研究
 - 第21回日本土壌肥料学会技術賞受賞者
 - ・熊谷勝巳：積雪寒冷地水田における良食味米安定生産と環境影響軽減のための土壌管理・施肥技術の開発
 - ・藤本順子：園芸作物における栄養障害の早期診断法と障害回避技術の開発
- 5) 第34回日本土壌肥料学会奨励賞(岡崎圭毅、小八重善裕、多胡香奈子、早川 敦、南川和則)及び第5回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者(笛木伸彦、本間利光)の記念講演については、佐賀大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者(八木哲生・松本武彦・大友 量・小林創平・三枝俊哉・岡 紀邦)及びSSPN Award 受賞者(Kohei Yamashita・Hiroki Honjo・Mizuhiko Nishida・Makoto Kimura・Susumu Asakawa、Sumio Itoh・Tetsuya Eguchi・Naoto Kato・Shigeru Takahashi)については、佐賀大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。

(3) 2016 年度支部大会

- ・北海道支部：秋季支部大会(11/29 於とちまちプラザ 帯広市)が開催された。
- ・東北支部：支部大会(7/5～6 於山形大学農学部 鶴岡市)が開催された。
- ・関東支部：支部大会(12/3 於宇都宮大学峰キャンパス 宇都宮市)が開催された。
- ・中部支部：第95回支部例会(3/3 於三重大学生物資源学部 津市)が開催された。

- ・関西支部：支部大会（12/8 於メルパルク京都 京都市）が開催された。
- ・九州支部：支部春季例会（4/27～28 於鹿児島大学 鹿児島市）が予定されていたが、熊本地震（4/14）の発生により中止された。

(4) その他

- ・「第 29 回環境工学連合講演会（5/13 日本学術会議講堂）」を共催した。
- ・日本地球惑星科学連合 2016 年度大会（5/22～26 幕張メッセ）のセッション「流域生態系の水及び物質の輸送と循環－源流域から沿岸域まで－」を協賛した。
- ・日本第四紀学会「考古学，人類学，土壌学とジオパークに関する公開シンポジウム」（6/19 明治大学駿河台校舎）を後援した。
- ・第 26 回環境工学総合シンポジウム（6/29～7/1 金沢市）を協賛した。
- ・「第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/6～8 東京大学弥生講堂）」を共催した。
- ・ポスト国際土壌年巡回展示「土ってなんだろう？」（7/10～31 飯能市ほか）を共催した。
- ・施設園芸・植物工場展 2016(GPEC 7/26～29 東京ビッグサイト)を協賛した。
- ・日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2016（8/3 日本大学生物資源科学部）」を共催した。
- ・第 17 回国際土壌動物学会議（8/22～26 奈良市）を協賛した。
- ・第 18 回国際腐植物質学会国際会議（9/11～19 金沢市）を共催した。
- ・第 60 回粘土科学討論会（9/15～17 福岡市）」を共催した。
- ・第 12 回エコバランス国際会議（10/3～6 京都テルサ）を協賛した。
- ・2016 土壌・地下水環境展（10/19～21 東京ビッグサイト）を協賛した。
- ・日本学術会議農学委員会育種学分科会シンポジウム「気候変動に打ち克つ育種戦略（11/11 日本学術会議講堂）」を後援した。
- ・日本沙漠学会「乾燥地土壌と人々の生業に関わる研究会」（11/15 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス）を後援した。
- ・公開シンポジウム：土壌が地球を救う－地球温暖化対策に向けて土壌の炭素貯蔵と吸収の役割を科学的に明らかにする－（11/30 早稲田大学日本橋キャンパスコレド日本橋ホール）を後援した。
- ・「第 32 回近赤外フォーラム（11/30～12/3 鹿児島大学）」を後援した。
- ・農研機構シンポジウム「水田農業の構造変化に対応する技術革新の方向－現地実証を基点とした農業技術の再構築を考える－（12/6 東京大学弥生講堂）」を後援した。
- ・ポスト国際土壌年巡回展示「土ってなんだろう？」（12/3 日本土壌肥料学会関東支部大会、12/8～10 エコプロダクツ 2016）を共催した。
- ・日本第四紀学会公開シンポジウム「ジオパークと土壌：大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌の役割」（2017.1/28 筑波大学東京キャンパス）を後援した。
- ・農研機構-MARCO シンポジウム「今こそ土壌の炭素貯留～4/1000 イニシアチブとともに」（2017.2/28～3/1 農業環境変動研究センター）を後援した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/14）、論文賞等選考委員会（10/14）および第4回理事会（10/15）において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

第62回 日本土壌肥料学会賞

- ・石川 覚：イネのカドミウム吸収機構の解明とカドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」の開発
- ・久保寺秀夫：九州沖縄地域の各種土壌が有する問題点の解析と管理指針の提示
- ・山本洋子：植物細胞におけるアルミニウム障害ならびに耐性機構に関する研究

第22回 日本土壌肥料学会技術賞

- ・原 正之：家畜ふん堆肥の成型技術に関する研究
- ・藤井弘志：気象変動条件下における水稻の生産性向上のための窒素とケイ酸の肥培管理技術の開発

第35回 日本土壌肥料学会奨励賞

- ・阿部 進：西アフリカ低地の土壌生成学的研究と水田稲作ポテンシャルの実践的評価
- ・上野大勢：植物の重金属輸送に関する研究
- ・杉原 創：熱帯アフリカにおける養分フローに着目した土壌資源管理に関する研究
- ・和田慎也：葉の老化過程におけるオートファジーを介した葉緑体タンパク質の分解と窒素利用効率に関する研究

第6回 日本土壌肥料学会技術奨励賞

- ・岩佐博邦：メタン発酵消化液由来資材の肥料的効果の検証とその施用技術の確立に関する研究
- ・丹羽勝久：大規模畑作地帯における土壌の評価とその活用に関する研究

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・森次真一・石橋英二・山本章吾・沖 和生：水稻栽培におけるアメダスメッシュ気象データを活用した被覆尿素の窒素溶出推定精度
- ・板橋 直：土壌への窒素負荷による河川水質汚濁に対する脆弱地域の区分～霞ヶ浦周辺地域の9河川流域での事例～

SSPN AWARD 受賞者

- ・ Atfritedy Limin, Mariko Shimizu, Masayoshi Mano, Keisuke Ono, Akira Miyata, Hideo Wada, Haruhiko Nozaki, Ryusuke Hatano : Manure application has an effect on the carbon budget of a managed grassland in southern Hokkaido, Japan

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 28 年度日本農学会シンポジウム「山の農学 ―「山の日」から考える (10/8)」に協力した。
- ・日本農学会の法人化に関するアンケートに回答するとともに日本農学会法人化対応委員会に当学会からも委員を出し、協力した。

(2) 日本学術会議関係

- ・1月28日に公表された日本学術会議農学委員会土壌科学分科会による提言「緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性」の要旨を、日本土壌肥料学会の責任において英訳し、学会ウェブページに掲載した。

(3) IUSS、ESAFS 関係

- ・2015 年 12 月 7 日に IUSS において採択されたウィーン土壌宣言「人類および生態系のための土壌」を和訳し、学会ウェブページおよび会誌に掲載した。
- ・日本学術会議農学委員会 IUSS 分科会に IUSS 会長および名誉会員候補者を推薦し、当学会が推薦した小崎 隆氏が IUSS 次期会長に当選した。
- ・IUSS 中間会議 (11/19~25 ブラジル・リオデジャネイロ) に代表者を派遣した。
- ・IUSS「国際土壌の 10 年」の関連事業としてわが国土壌学の先達 (IUSS 名誉会員) に対しインタビューすることとなり、久馬一剛氏へのインタビューを実施した。

(4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 15
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 21

(5) その他

- ・第 15 回日本農学進歩賞を中尾 淳氏 (京都府立大学) が受賞した (11/25)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、東京大学山上会館で開催した(4/4)。
- ・「国際土壌の 10 年」関連事業を企画・実施した。世界土壌デー (12/5) の前後に行われた日本土壌肥料学会関東支部会社会貢献交流会 (12/3) およびエコプロダクツ 2016 (12/8~10) において、巡回展 (主催: 埼玉県立川の博物館、共催: 日本土壌肥料学会・日本ペドロジー学会) を行い、国際土壌の 10 年についても紹介した。

(2) 土壌教育委員会

- ・日本大学 (藤沢市) において、(公社) 日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2016」を日本大学生物資源科学部生命化学科とともに共催した (8/5)。
- ・佐賀大会において「高校生ポスター発表会」を大会 3 日目の 11:30~13:00 に開催した (9/22)。13 課題 (12 校) がポスター発表を行った。うち 1 課題については掲示のみで発表者が参加しなかったが、他の課題については発表者が説明

し、学会員と熱心な質疑応答が行われた。兵庫県立篠山東雲高等学校にポスター賞、北海道立岩見沢農業高等学校と福岡県立糸島農業高等学校に優秀賞が授与された。また、参加校のうち希望校 5 校に宿泊費の一部を補助した。

- ・関東支部大会（栃木大会）において、高校生ポスター発表会と社会貢献交流会を実施した（12/3）。高校生ポスター発表会には 6 課題（4 校）の参加があり、山梨県立韮崎高等学校が最優秀賞、埼玉県立熊谷西高等学校が優秀賞に選ばれた。社会貢献交流会には 4 団体（5 件）の参加があった。
- ・桐生自然観察の森（群馬県桐生市）に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を寄贈した。

(3) 広報委員会

- ・京都大会で開催された公開シンポジウム「土壌はアフリカを養えるのか」の講演要旨を学会ウェブページに掲載した。
- ・「エコプロダクツ 2016（12/8～10 東京ビッグサイト）」に日本ペドロロジー学会とともにブースを出展した。
- ・「国際土壌の 10 年と関連活動」の項目を設けるなど、学会ウェブページを改訂した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

1) 2017 年 2 月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,768 名（うち会費免除会員 90 名、外国正会員 34 名）、賛助会員 37 社、名誉会員 11 名、学生会員 253 名（うち留学生 58 名）、国内団体購読会員 102 団体 合計 2,171 名

2) 2016 年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 69 名、学生会員 123 名（うち留学生 24 名）、国内団体購読会員 1 団体 合計 193 名（団体）

退会：正会員 137 名（うち会費免除会員 14 名）、賛助会員 4 団体、名誉会員 1 名、学生会員 125 名（うち留学生 10 名）、国内団体購読会員 5 団体 合計 272 名（団体）

(2) 会議

1) 総会：2016 年 4 月 4 日、東京大学山上会館において第 39 回通常総会が開催された。本総会においては、①2015 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2016 年度事業計画案および収支予算案、③総会議事録署名人の選任について審議され、各議案とも、原案どおり承認された。その議事録を会誌 87 巻第 3 号に掲載した。

2) 理事会：学会事務所において 7 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、平成 29 年度日本農学会シンポジウムのテーマ案、佐賀大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成案、欧文誌編集委員の交代案、技術

奨励賞の件数の変更案、2016・2017年度学会賞等選考委員の承認、業務委託先との契約終了および新たな業務委託先の選定と契約、IUSS 次期会長および名誉会員の推薦、IUSS 名誉会員へのインタビュー、土壌肥料若手の会 2016 の支援、若手会員海外渡航費の支援、2016 佐賀大会の決算、2017 仙台大会の予算案、2018 年度年次大会の開催場所・日時・組織体制、学会の国際化に関する諸対応、名誉会員候補者の選考、共催・後援・協賛等の申請、細則 23 条による会費免除の申請、入退会者の承認等について審議し、実施してきた。

- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議 (3/25～4/8) は、メール会議で実施した。佐賀大会におけるシンポジウムの公募に対して 4 件の応募があったが、関連部門に偏りがあり、また数的にも少ないことから、部門長会議からも 3 件提案し、合計 7 件開催することとした。うち 1 件については公開シンポジウムを希望していた。その他、大会運営委員会からも公開シンポジウムが 1 件開催されることとなった。②第 2 回部門長会議 (6/18) においては、佐賀大会のプログラム編成、シンポジウムおよびミニシンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数等について検討された。また、欧文誌への部門による **Special Section** と **Review paper** の企画案について検討された。③第 3 回部門長会議 (11/3) においては、議長・副議長の選任、2016 佐賀大会の結果概要、2017 仙台大会の準備状況について報告された。また、進歩総説のテーマを「気候変動(温暖化)対策」とすることになった。
- 4) 2016 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、平成 29 年度日本農学賞候補者、第 62 回日本土壌肥料学会賞、第 22 回同技術賞、第 35 回同奨励賞および第 6 回同技術奨励賞の受賞者を選考した (10/14)。その結果は第 4 回理事会 (10/15) での承認を経て、会誌 87 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 5 回理事会での承認を経て、会誌 87 巻第 6 号に掲載した。
- 5) 会誌編集関係：常任編集委員会を 4 回、地域担当編集委員との合同編集委員会を 1 回開催した。①投稿状況については、例年に比べて報文・ノートの投稿数が少ないことから、投稿促進の工夫および総説・解説等の拡充が必要である。②CiNii から J-STAGE への移行についての手続きは終了しており、J-STAGE へのアップロードの仕方について説明会に参加した。
- 6) 欧文誌編集関係：①SSPN 投稿・編集状況が報告された。1～8 月までの投稿数は例年より少なく、また掲載待ち原稿も少ないため、62 巻 5 号と 6 号は合本して発行した。②SSPN 特集については、ICOBTE (62 巻 4 号) が発行され、Rice GHG (水田における温室効果ガス排出削減研究の最前線 64 巻予定) の企画が進められている。また、スペシャルセクションとして「リンを巡る根圏研究の最前線」および「人工改変土壌の物理・化学・生物的反応過程」が提案され、承認された。
- 7) 支部における会議
北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/7 於北海道大学エンレイソウ)、第 2 回支部評議員会および支部総会 (11/29 於とちかちプラザ) が開催された。

東北支部：支部総会（7/5 於山形大学農学部）が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会（12/3 於宇都宮大学峰キャンパス）が開催された。

中部支部：157 回支部評議員会および 76 回支部総会（3/3 於三重大学生物資源学部）が開催された。158 回支部評議員会（5/27 於 TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター）が開催された。

関西支部：関西土壌肥料協議会との共催による役員会（12/9 於メルパルク京都）が開催された。

九州支部：支部総会、支部常議員会および支部賞選考委員会（9/21 佐賀大学本庄キャンパス）が開催された。

(3) 業務委託先の変更

- ・財政基盤整備委員会に会長、副会長、会誌編集委員長および会誌担当理事を加えた拡大財政基盤整備委員会を組織し、会誌の編集・刊行および会員管理に関する業務委託先の変更について検討した。
- ・会誌の編集・刊行についてはオンライン投稿・編集システム、会員管理についてはオンラインリレーショナルデータベースシステムを使用することとし、これらシステムを用いた業務に十分な実績を有する会社に業務委託することとした。
- ・新たな委託先の候補 4 社とのヒアリングおよび見積書を検討した結果、(株) 国際文献社と業務委託契約を結んだ（11/1）。

(4) その他

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期 5 名に渡航費の一部支援を行い、後期 3 名について支援することとなった。
- ・2018 年度年次大会は隅田裕明氏（日大）を大会運営委員長とし、2018 年 8 月 29（火）～31 日（木）、日本大学生物資源科学部（藤沢キャンパス）において開催することを決定した。

Ⅱ. 2016（平成28）年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。

Ⅲ. 2016（平成28）年度収支決算報告書

一般正味財産増減の部

1. 経常収益

予算額より46万円減の4,688万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな科目

- ⑤事業収益／大会収入／雑収入（予算額より44万円増）
- 同／支部大会収入（同59万円増）
- ⑩雑収入（同83万円増）

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ④受取会費／欧文誌購読会員受取会費（予算額より44万円減）
- ⑤事業収益／会誌刊行等事業収益／欧文誌投稿料・別刷代等（同172万円減）

2. 経常費用

予算額より301万円減の5,154万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな支出科目

- ①事業費／年次大会開催費（予算額より60万円増）
- 同／会誌刊行費／編集費（同57万円増）
- ②管理費／業務委託費（同192万円増）
- 同／雑費（同20万円増）

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ①事業費／会誌刊行費／印刷製本費（予算額より100万円減）
- 同／欧文誌刊行費（同143万円減）
- 同／各種委員会等運営費（同89万円減）
- 同／女性・若手支援費（同88万円減）
- ②管理費／旅費交通費（同23万円減）
- 同／リース料（同47万円減）

この結果、当期経常増減額は、-466万円であった。

当期には、会誌刊行事業および会員管理の委託先変更にともなう経常費用の増加もあったが、各事業の実施にあたり支出のいっそうの節制が図られたため、

予算作成時に想定した赤字額(722万円)は大幅に縮小された。

3. 経常外増減の部

なし。

以上の結果、当期一般正味財産増減額は、-466万円であった。

一般正味財産期首残高は1億5,090万円だったので、同期末残高は1億4,624万円となった。

指定正味財産増減の部

なし。

以上の結果から、正味財産期末残高は1億4,624万円となった。

予算対比正味財産増減計算書【管理費配賦前】

2016(平28)年3月1日から2017(平29)年2月28日まで

1/2

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	1,500	1,483	17	
基本財産受取利息	(1,500)	(1,483)	17	
② 特定資産運用益	0	14,968	△ 14,968	
特定資産受取利息	(0)	(14,968)	△ 14,968	
③ 受取入会金	540,000	567,000	△ 27,000	
受取入会金	(540,000)	(567,000)	△ 27,000	3,000円×195人
④ 受取会費	26,140,000	25,696,000	444,000	
正会員受取会費	(17,500,000)	(17,334,000)	166,000	10,000円×1734人
学生会員受取会費	(1,680,000)	(1,860,000)	△ 180,000	6,000円×310人
団体会員受取会費	(2,180,000)	(2,160,000)	20,000	20,000円×108団体
欧文誌購読会費受取会費	(2,280,000)	(1,842,000)	438,000	6,000円×307人
賛助会員受取会費	(2,500,000)	(2,500,000)	0	50,000円×50口
⑤ 事業収益	20,562,500	19,586,362	976,138	
会誌刊行等事業収益	(13,362,000)	(11,481,548)	1,880,452	
会誌委託販売	(1,200,000)	(1,071,360)	128,640	
会誌投稿料・別刷り代等	(2,700,000)	(2,627,162)	72,838	87(2)～88(1)
会誌バックナンバー等	(10,000)	(0)	10,000	
欧文誌委託販売	(3,500,000)	(3,500,000)	0	Talor & Francis
欧文誌投稿料・別刷り代等	(5,842,000)	(4,125,106)	1,716,894	62(2)～63(1)
欧文誌バックナンバー等	(10,000)	(0)	10,000	
講演要旨集(大会時外)	(0)	(86,400)	△ 86,400	3,500円×25部
その他印刷物	(0)	(0)	0	
出版物印税	(100,000)	(71,520)	28,480	
大会収入	(6,400,500)	(6,740,214)	△ 339,714	佐賀大会
参加料	(3,245,000)	(3,214,000)	31,000	
発表料	(520,000)	(525,000)	△ 5,000	1,000円×525題
講演要旨集(大会時)	(2,600,000)	(2,528,000)	72,000	4,000円×632部
雑収入	(35,500)	(473,214)	△ 437,714	佐賀市大会等開催支援補助金他
広告料収入	(800,000)	(777,600)	22,400	
支部大会収入	(0)	(587,000)	△ 587,000	支部大会
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
受取補助金	(0)	(0)	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
受取助成金	(0)	(0)	0	
⑧ 受取寄付金	0	100,278	△ 100,278	
受取寄付金	(0)	(100,278)	△ 100,278	Talor & Francis SSPN Award
受取寄附金振替額	(0)	(0)	0	
⑨ 受託収入	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	0	
⑩ 雑収入	90,000	912,906	△ 822,906	
受取利息	(20,000)	(270)	19,730	
雑収益	(70,000)	(646,474)	△ 576,474	情報システム研究機構、消費税還付金、学術著作権協会他
支部雑収入	(0)	(266,162)	△ 266,162	
経常収益計	47,334,000	46,878,997	455,003	
(2) 経常費用				
① 事業費	32,995,990	29,574,522	3,421,468	
年次大会開催費	(6,347,360)	(6,944,246)	△ 596,886	
会場費	(1,170,000)	(1,288,568)	△ 118,568	
人件費	(720,000)	(813,000)	△ 93,000	学生アルバイト
運営費	(599,600)	(765,138)	△ 165,538	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(2,337,120)	(2,347,596)	△ 10,476	運営業務委託費等
大会関係印刷費	(1,520,640)	(1,729,944)	△ 209,304	講演要旨集印刷代
会誌刊行費	(12,030,000)	(11,532,901)	497,099	87(2)～88(1)
印刷製本費	(10,000,000)	(9,000,547)	999,453	
通信運搬費	(2,000,000)	(1,931,354)	68,646	
編集費	(30,000)	(601,000)	△ 571,000	
欧文誌刊行費	(6,374,250)	(4,946,003)	1,428,247	62(2)～63(1)
印刷製本費	(4,874,250)	(4,057,407)	816,843	
通信運搬費	(0)	(0)	0	
編集費	(1,500,000)	(888,596)	611,404	
各種委員会等運営費	(2,044,780)	(1,155,091)	889,689	土壌教育委員会他

次頁に続く

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
学術交流費	(60,000)	(0)	60,000	
国際交流費	(800,000)	(750,028)	49,972	IUSS中間会議旅費
事業関係通信運搬費	(200,000)	(256,964)	△ 56,964	
事業関係雑費	(35,000)	(21,000)	14,000	
事業関係業務委託費	(0)	(15,040)	△ 15,040	英文校閲業務
農学会等分担金	(270,000)	(269,800)	200	日本農学会分担金、日本学術協力財団等
HP管理費	(189,600)	(206,600)	△ 17,000	
顕彰費	(710,000)	(770,000)	△ 60,000	学会賞他
女性・若手支援費	(1,600,000)	(715,460)	884,540	奨励賞、若手支援
国際シンポジウム費	(675,000)	(675,000)	0	国際腐植物質学会実行委員会
国際土壌年事業費	(160,000)	(21,600)	138,400	
支部大会開催費	(1,500,000)	(1,294,789)	205,211	
② 管理費	21,556,920	21,964,754	△ 407,834	
役員報酬	(2,400,000)	(2,400,000)	0	
給料手当	(3,600,000)	(3,499,200)	100,800	
臨時雇賃金	(500,000)	(340,000)	160,000	
退職給付費用	(171,920)	(170,000)	1,920	退職給与引当金繰入
法定福利費	(100,000)	(23,444)	76,556	労働保険
福利厚生費	(600,000)	(588,261)	11,739	社会保険
会議費	(140,000)	(163,809)	△ 23,809	
總會	(60,000)	(0)	60,000	
理事会	(20,000)	(7,666)	12,334	
部門長会	(10,000)	(3,116)	6,884	
選考委員会	(10,000)	(4,350)	5,650	
選挙管理委員会	(10,000)	(2,250)	7,750	
その他会議費	(30,000)	(146,427)	△ 116,427	支部会議費等
旅費交通費	(4,000,000)	(3,770,080)	229,920	
通信運搬費	(1,000,000)	(855,222)	144,778	
什器備品費	(50,000)	(0)	50,000	
消耗品費	(300,000)	(279,474)	20,526	
印刷製本費	(300,000)	(391,133)	△ 91,133	総会資料、規程集
事務所賃料等	(3,120,000)	(3,317,639)	△ 197,639	事務所家賃・共益費
事務所賃借保証料	(0)	(0)	0	
光熱水料費	(300,000)	(245,258)	54,742	
リース料	(800,000)	(329,205)	470,795	PC、FAX等
保険料	(25,000)	(45,520)	△ 20,520	賃貸借年間補償委託料、火災保険
租税公課	(800,000)	(70,000)	730,000	法人税
業務委託費	(3,250,000)	(5,173,785)	△ 1,923,785	会員管理、会計業務
雑費	(100,000)	(302,724)	△ 202,724	バックナンバー処分、弥生会計ソフトサポート他
経常費用計	54,552,910	51,539,276	3,013,634	
当期経常増減額	△ 7,218,910	△ 4,660,279	△ 2,558,631	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 7,218,910	△ 4,660,279	△ 2,558,631	
一般正味財産期首残高	124,501,783	150,900,145	△ 26,398,362	
一般正味財産期末残高	117,282,873	146,239,866	△ 28,956,993	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	117,282,873	146,239,866	△ 28,956,993	

財 産 目 録
2017(平29)年2月28日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金			
現金手許有高		運転資金として	586,823
普通預金	みずほ銀行本郷支店(普)-1	運転資金として	8,276,214
	みずほ銀行(養賢堂)本郷支店(普)-2	運転資金として	12,928,543
	みずほ銀行本郷支店(普)-3	運転資金として	3,692,507
	三菱東京UFJ銀行本郷支店(普)-4	運転資金として	240,908
郵便振替貯金		運転資金として	19,457,380
支部現金預金			3,628,379
(1) 北海道支部		運転資金として	(552,670)
(2) 東北支部		運転資金として	(916,781)
(3) 関東支部		運転資金として	(229,281)
(4) 中部支部		運転資金として	(427,754)
(5) 関西支部		運転資金として	(585,942)
(6) 九州支部		運転資金として	(915,951)
現金預金合計			48,810,754
仮払金			
(1) 年次大会			0
仮払金合計			0
未収金			
(1) 会費(団体会員)		2016年度	2,000,000
(2) 会費(賛助会員)			0
(3) 会誌投稿料・別刷代		2016年度	490,092
(4) 欧文誌委託販売			0
(5) 欧文誌投稿料・別刷代		2016年度	67,699
(6) 広告料		2016年度	97,200
(7) 講演要旨集			0
未収金合計			2,654,991
流動資産合計			51,465,745
(固定資産)			
基本財産			
基本財産合計	みずほ銀行本郷支店(定)-1		10,000,000
特定資産			10,000,000
国際シンポジウム準備積立金	みずほ銀行本郷通支店(定)-2		6,170,000
女性・若手会員支援事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-3		(6,170,000)
表彰事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-4		17,700,000
退職給付引当積立預金	みずほ銀行本郷支店(定)-5		(17,700,000)
事務所維持等積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-6		2,000,000
特定資産合計	三菱東京UFJ銀行(定)-6		(2,000,000)
その他固定資産			900,000
保証金			(900,000)
その他固定資産合計			74,160,000
固定資産合計			(74,160,000)
資産合計			100,930,000
(流動負債)			
未払金		会計事務所顧問料他	773,593
前受会費		2017年度以降分会費	12,095,000
前受金		テイラー&フランシス社 ロイヤリティ2017年3月分~12月分相当分	2,920,000
預り金		源泉税・社会保険1月~2月分	53,446
流動負債合計			15,842,039
(固定負債)			
(1) 退職給付引当金			1,070,000
負債合計			16,912,039
正味財産			146,239,866

貸借対照表
2017(平29)年2月28日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	48,810,754	43,945,665	4,865,089
預け金	0	0	0
仮払金	0	500,000	△ 500,000
未収金	2,654,991	12,748,359	△ 10,093,368
前払金	0	0	0
流動資産合計	51,465,745	57,194,024	△ 5,728,279
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	2,000,000	0
退職給付引当預金	900,000	900,000	0
事務所維持等積立金	74,160,000	74,160,000	0
特定資産合計	100,930,000	100,930,000	0
(3) その他固定資産			
保証金	756,160	756,160	0
その他固定資産合計	756,160	756,160	0
固定資産合計	111,686,160	111,686,160	0
資産合計	163,151,905	168,880,184	△ 5,728,279
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	773,593	62,368	711,225
前受会費	12,095,000	14,036,000	△ 1,941,000
前受金	2,920,000	2,920,000	0
預り金	53,446	61,671	△ 8,225
流動負債合計	15,842,039	17,080,039	△ 1,238,000
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,070,000	900,000	170,000
固定負債合計	1,070,000	900,000	170,000
負債合計	16,912,039	17,980,039	△ 1,068,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	0	(0)
2. 一般正味財産	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(100,030,000)	(100,030,000)	(0)
正味財産合計	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279
負債及び正味財産合計	163,151,905	168,880,184	△ 5,728,279

正味財産増減計算書

2016(平28)年3月1日から2017(平29)年2月28日まで

1/2

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	1,483	1,994	△ 511
基本財産受取利息	(1,483)	(1,994)	△ 511
② 特定資産運用益	14,968	18,251	△ 3,283
特定資産受取利息	(14,968)	(18,251)	△ 3,283
③ 受取入会金	567,000	585,000	△ 18,000
受取入会金	(567,000)	(585,000)	△ 18,000
④ 受取会費	25,696,000	26,720,000	△ 1,024,000
正会員受取会費	(17,334,000)	(17,726,000)	△ 392,000
学生会員受取会費	(1,860,000)	(2,112,000)	△ 252,000
団体会員受取会費	(2,160,000)	(2,240,000)	△ 80,000
欧文誌購読会員受取会費	(1,842,000)	(1,992,000)	△ 150,000
賛助会員受取会費	(2,500,000)	(2,650,000)	△ 150,000
⑤ 事業収益	19,586,362	25,699,928	△ 6,113,566
印刷物収入	(11,481,548)	(17,268,164)	△ 5,786,616
大会収入	(6,740,214)	(7,062,564)	△ 322,350
広告料収入	(777,600)	(680,400)	97,200
支部大会収入	(587,000)	(688,800)	△ 101,800
⑥ 受取補助金等	0	0	0
受取補助金	(0)	(0)	0
⑦ 受取助成金	0	1,300,000	△ 1,300,000
受取助成金	(0)	(1,300,000)	△ 1,300,000
⑧ 受取寄付金	100,278	520,000	△ 419,722
受取寄付金	(100,278)	(520,000)	△ 419,722
受取寄附金振替額	(0)	(0)	0
⑨ 受託収益	0	829,440	△ 829,440
受託収益	(0)	(829,440)	△ 829,440
⑩ 雑収入	912,906	1,010,966	△ 98,060
受取利息	(270)	(6,802)	△ 6,532
雑収益	(646,474)	(753,438)	△ 106,964
支部雑収入	(266,162)	(250,726)	15,436
経常収益計	46,878,997	56,685,579	△ 9,806,582
(2) 経常費用			
① 事業費	42,816,728	49,839,689	△ 7,022,961
年次大会開催費	(6,944,246)	(7,457,945)	△ 513,699
会誌刊行費	(11,532,901)	(12,864,281)	△ 1,331,380
欧文誌刊行費	(4,946,003)	(5,623,124)	△ 677,121
各種委員会等運営費	(1,155,091)	(1,409,958)	△ 254,867
学術交流費	(0)	(0)	0
国際交流費	(750,028)	(1,179,638)	△ 429,610
事業関係通信運搬費	(256,964)	(149,980)	106,984
事業関係雑費	(21,000)	(58,800)	△ 37,800
事業関係業務委託費	(15,040)	(0)	15,040
農学会等分担金	(269,800)	(362,200)	△ 92,400
HP管理費	(206,600)	(156,600)	50,000
顕彰費	(770,000)	(610,000)	160,000
女性・若手支援費	(715,460)	(804,329)	△ 88,869
国際シンポジウム費	(675,000)	(2,160,888)	△ 1,485,888
国際土壌年事業費	(21,600)	(2,973,765)	△ 2,952,165
支部大会開催費	(1,294,789)	(1,627,072)	△ 332,283
役員報酬	(1,680,000)	(1,680,000)	0
給料手当	(2,099,520)	(2,063,040)	36,480
臨時雇賃金	(170,000)	(219,250)	△ 49,250
退職給付費用	(102,000)	(90,000)	12,000
法定福利費	(14,066)	(16,437)	△ 2,371
福利厚生費	(352,957)	(346,639)	6,318
会議費	(32,762)	(39,458)	△ 6,696
旅費交通費	(2,262,048)	(2,416,020)	△ 153,972
通信運搬費	(684,178)	(616,740)	67,438
什器備品費	(0)	(0)	0
消耗品費	(83,842)	(30,263)	53,579
印刷製本費	(312,906)	(230,870)	82,036
事務所賃料等	(1,990,583)	(1,837,462)	153,121
事務所賃借保証料	(0)	(0)	0
光熱水料費	(122,629)	(125,103)	△ 2,474
修繕費	(0)	(0)	0
負担費	(0)	(0)	0
リース料	(230,444)	(243,251)	△ 12,807
業務委託費	(3,104,271)	(2,446,576)	657,695
減価償却費	(0)	(0)	0

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費	8,722,548	10,404,520	△ 1,681,972
役員報酬	(720,000)	(720,000)	0
給料手当	(1,399,680)	(1,375,360)	24,320
臨時雇賃金	(170,000)	(219,250)	△ 49,250
退職給付費用	(68,000)	(60,000)	8,000
法定福利費	(9,378)	(10,958)	△ 1,580
福利厚生費	(235,304)	(231,092)	4,212
会議費	(131,047)	(157,832)	△ 26,785
旅費交通費	(1,508,032)	(1,610,680)	△ 102,648
通信運搬費	(171,044)	(154,185)	16,859
什器備品費	(0)	(0)	0
消耗品費	(195,632)	(70,615)	125,017
印刷製本費	(78,227)	(57,717)	20,510
事務所賃料等	(1,327,056)	(1,224,974)	102,082
事務所賃貸借保証料	(0)	(0)	0
光熱水料費	(122,629)	(125,103)	△ 2,474
修繕費	(0)	(0)	0
負担費	(0)	(0)	0
リース料	(98,761)	(104,251)	△ 5,490
保険料	(45,520)	(25,520)	20,000
租税公課	(70,000)	(2,427,837)	△ 2,357,837
業務委託費	(2,069,514)	(1,631,050)	438,464
雑費	(302,724)	(198,096)	104,628
減価償却費	(0)	(0)	0
経常費用計	51,539,276	60,244,209	△ 8,704,933
当期経常増減額	△ 4,660,279	△ 3,558,630	△ 1,101,649
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,660,279	△ 3,558,630	△ 1,101,649
一般正味財産期首残高	150,900,145	154,458,775	△ 3,558,630
一般正味財産期末残高	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279

正味財産増減計算書（内訳表）
2016(平28)年3月1日から2017(平29)年2月28日まで

1/2

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	法人会計	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 基本財産運用益	0	1,483	1,483	1,994	△ 511
基本財産受取利息	(0)	(1,483)	(1,483)	(1,994)	△ 511
② 特定資産運用益	0	14,968	14,968	18,251	△ 3,283
特定資産受取利息	(0)	(14,968)	(14,968)	(18,251)	△ 3,283
③ 受取入会金	0	567,000	567,000	585,000	△ 18,000
受取入会金	(0)	(567,000)	(567,000)	(585,000)	△ 18,000
④ 受取会費	0	25,696,000	25,696,000	26,720,000	△ 1,024,000
正会員受取会費	(0)	(17,334,000)	(17,334,000)	(17,726,000)	△ 392,000
学生会員受取会費	(0)	(1,860,000)	(1,860,000)	(2,112,000)	△ 252,000
団体会員受取会費	(0)	(2,160,000)	(2,160,000)	(2,240,000)	△ 80,000
欧文誌購読会員受取会費	(0)	(1,842,000)	(1,842,000)	(1,992,000)	△ 150,000
賛助会員受取会費	(0)	(2,500,000)	(2,500,000)	(2,650,000)	△ 150,000
⑤ 事業収益	19,586,362	0	19,586,362	25,699,928	△ 6,113,566
印刷物収入	(11,481,548)	(0)	(11,481,548)	(17,268,164)	△ 5,786,616
大会収入	(6,740,214)	(0)	(6,740,214)	(7,062,564)	△ 322,350
広告料収入	(777,600)	(0)	(777,600)	(680,400)	97,200
支部大会収入	(587,000)	(0)	(587,000)	(688,800)	△ 101,800
⑥ 受取補助金等	0	0	0	0	0
受取補助金	(0)	(0)	(0)	(0)	0
⑦ 受取助成金	0	0	0	1,300,000	△ 1,300,000
受取助成金	(0)	(0)	(0)	(1,300,000)	△ 1,300,000
⑧ 受取寄付金	100,278	0	100,278	520,000	△ 419,722
受取寄付金	(100,278)	(0)	(100,278)	(520,000)	△ 419,722
受取寄附金振替額	(0)	(0)	(0)	(0)	0
⑨ 受託収益	0	0	0	829,440	△ 829,440
受託収益	(0)	(0)	(0)	(829,440)	△ 829,440
⑩ 雑収入	0	912,906	912,906	1,010,966	△ 98,060
受取利息	(0)	(270)	(270)	(6,802)	△ 6,532
雑収益	(0)	(646,474)	(646,474)	(753,438)	△ 106,964
支部雑収入	(0)	(266,162)	(266,162)	(250,726)	15,436
経常収益計	19,686,640	27,192,357	46,878,997	56,685,579	△ 9,806,582
(2) 経常費用					
① 事業費	42,816,728	0	42,816,728	49,839,689	△ 7,022,961
年次大会開催費	(6,944,246)	(0)	(6,944,246)	(7,457,945)	△ 513,699
会誌刊行費	(11,532,901)	(0)	(11,532,901)	(12,864,281)	△ 1,331,380
欧文誌刊行費	(4,946,003)	(0)	(4,946,003)	(5,623,124)	△ 677,121
各種委員会等運営費	(1,155,091)	(0)	(1,155,091)	(1,409,958)	△ 254,867
学術交流費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
国際交流費	(750,028)	(0)	(750,028)	(1,179,638)	△ 429,610
事業関係通信運搬費	(256,964)	(0)	(256,964)	(149,980)	106,984
事業関係雑費	(21,000)	(0)	(21,000)	(58,800)	△ 37,800
事業関係業務委託費	(15,040)	(0)	(15,040)	(0)	15,040
農学会等分担金	(269,800)	(0)	(269,800)	(362,200)	△ 92,400
HP管理費	(206,600)	(0)	(206,600)	(156,600)	50,000
顕彰費	(770,000)	(0)	(770,000)	(610,000)	160,000
女性・若手支援費	(715,460)	(0)	(715,460)	(804,329)	△ 88,869
国際シンポジウム費	(675,000)	(0)	(675,000)	(2,160,888)	△ 1,485,888
国際土壌年事業費	(21,600)	(0)	(21,600)	(2,973,765)	△ 2,952,165
支部大会開催費	(1,294,789)	(0)	(1,294,789)	(1,627,072)	△ 332,283
役員報酬	(1,680,000)	(0)	(1,680,000)	(1,680,000)	0
給料手当	(2,099,520)	(0)	(2,099,520)	(2,063,040)	36,480
臨時雇賃金	(170,000)	(0)	(170,000)	(219,250)	△ 49,250
退職給付費用	(102,000)	(0)	(102,000)	(90,000)	12,000
法定福利費	(14,066)	(0)	(14,066)	(16,437)	△ 2,371
福利厚生費	(352,957)	(0)	(352,957)	(346,639)	6,318
会議費	(32,762)	(0)	(32,762)	(39,458)	△ 6,696
旅費交通費	(2,262,048)	(0)	(2,262,048)	(2,416,020)	△ 153,972
通信運搬費	(684,178)	(0)	(684,178)	(616,740)	67,438
什器備品費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
消耗品費	(83,842)	(0)	(83,842)	(30,263)	53,579
印刷製本費	(312,906)	(0)	(312,906)	(230,870)	82,036
事務所賃料等	(1,990,583)	(0)	(1,990,583)	(1,837,462)	153,121
事務所賃借保証料	(0)	(0)	(0)	(0)	0
光熱水料費	(122,629)	(0)	(122,629)	(125,103)	△ 2,474
修繕費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
負担費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
リース料	(230,444)	(0)	(230,444)	(243,251)	△ 12,807
業務委託費	(3,104,271)	(0)	(3,104,271)	(2,446,576)	657,695
減価償却費	(0)	(0)	(0)	(0)	0

科 目	実施事業等会計	法人会計	当年度	前年度	増 減
② 管理費	0	8,722,548	8,722,548	10,404,520	△ 1,681,972
役員報酬	(0)	(720,000)	(720,000)	(720,000)	0
給料手当	(0)	(1,399,680)	(1,399,680)	(1,375,360)	24,320
臨時雇賃金	(0)	(170,000)	(170,000)	(219,250)	△ 49,250
退職給付費用	(0)	(68,000)	(68,000)	(60,000)	8,000
法定福利費	(0)	(9,378)	(9,378)	(10,958)	△ 1,580
福利厚生費	(0)	(235,304)	(235,304)	(231,092)	4,212
会議費	(0)	(131,047)	(131,047)	(157,832)	△ 26,785
旅費交通費	(0)	(1,508,032)	(1,508,032)	(1,610,680)	△ 102,648
通信運搬費	(0)	(171,044)	(171,044)	(154,185)	16,859
什器備品費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
消耗品費	(0)	(195,632)	(195,632)	(70,615)	125,017
印刷製本費	(0)	(78,227)	(78,227)	(57,717)	20,510
事務所賃料等	(0)	(1,327,056)	(1,327,056)	(1,224,974)	102,082
事務所賃貸借保証料	(0)	(0)	(0)	(0)	0
光熱水料費	(0)	(122,629)	(122,629)	(125,103)	△ 2,474
修繕費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
負担費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
リース料	(0)	(98,761)	(98,761)	(104,251)	△ 5,490
保険料	(0)	(45,520)	(45,520)	(25,520)	20,000
租税公課	(0)	(70,000)	(70,000)	(2,427,837)	△ 2,357,837
業務委託費	(0)	(2,069,514)	(2,069,514)	(1,631,050)	438,464
雑費	(0)	(302,724)	(302,724)	(198,096)	104,628
減価償却費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
経常費用計	42,816,728	8,722,548	51,539,276	60,244,209	△ 8,704,933
当期経常増減額	△ 23,130,088	18,469,809	△ 4,660,279	△ 3,558,630	△ 1,101,649
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 23,130,088	18,469,809	△ 4,660,279	△ 3,558,630	△ 1,101,649
一般正味財産期首残高	△ 16,925,424	167,825,569	150,900,145	154,458,775	△ 3,558,630
一般正味財産期末残高	△ 40,055,512	186,295,378	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 40,055,512	186,295,378	146,239,866	150,900,145	△ 4,660,279

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

税込処理

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	0	6,170,000
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	0	17,700,000
表彰事業積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
退職給付引当預金	900,000	0	0	900,000
事務所維持等積立金	74,160,000	0	0	74,160,000
小 計	100,930,000	0	0	100,930,000
合 計	110,930,000	0	0	110,930,000

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正 味財産からの 充当額)	(うち一般正 味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	0	2,000,000	0
退職給付引当預金	900,000	0	0	900,000
事務所維持等積立金	74,160,000	0	74,160,000	0
小 計	100,930,000	0	100,030,000	900,000
合 計	110,930,000	0	110,030,000	900,000

5. 担保に供している資産

なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	2,654,991	0	2,654,991
合 計	2,654,991	0	2,654,991

7. 保証債務等の偶発債務

なし

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。
なし
9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替の内訳は、次のとおりである。
なし
10. 重要な後発事象
なし

附属明細書
2017年(平29)年2月28日現在

1. 基本財産及び特定資産の明細

『財務諸表に対する注記』の通り

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	900,000	170,000	0	0	1,070,000

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【28 年度(2016/3/1 から 2017/2/28 までの概要】

1. 公益目的財産額	134,846,045円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	88,580,322円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	65,450,234円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	42,816,728円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	19,686,640円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	46,265,723円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
外部委託費削減他の理由により、毎期の実施事業会計の支出額が計画を概ね下回ったため	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成30年2月28日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	134,846,045円	134,846,045円	134,846,045円	134,846,045円	134,846,045円
公益目的収支差額	92,713,600円	65,450,234円	115,892,000円	88,580,322円	139,070,400円
公益目的支出の額	43,436,400円	49,839,689円	43,436,400円	42,816,728円	43,436,400円
実施事業収入の額	20,258,000円	27,519,928円	20,258,000円	19,686,640円	20,258,000円
公益目的財産残額	42,132,445円	69,395,811円	18,954,045円	46,265,723円	0円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

法人コード*	A013334
法人名	一般社団法人日本土壤肥料学会

平成29年5月26日

内閣総理大臣

安倍 晋三

殿

法人の名称 一般社団法人日本土壤肥料学会

代表者の氏名 間藤 徹

公益目的支出計画変更認可申請書

公益目的支出計画の変更の認可を受けたいので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第125条第1項の規定により、下記のとおり申請します。

記

変更内容	公益目的支出計画の完了予定年月日の変更		
変更に係る事項	変更後	変更前	
	平成31年2月28日	平成30年2月28日	
変更予定年月日	平成29年3月25日		

担当者	
氏名	馬目利昭(申請代理人 公認会計士)
電話番号	03-5211-3861
電子メールアドレス	manome@manome-ac.com

【別紙1:変更後の公益目的支出計画等】

1. 変更後の公益目的支出計画等

【変更後の公益目的支出計画の概要】

1	法人の名称	一般社団法人日本土壤肥料学会		
2	主たる事務所の所在場所	1130033	東京都	文京区本郷5丁目23番1 3号タムラビル10階
3	公益目的財産額	134,846,045円		
4	実施事業等の事業番号注及び内容			
	公益目的事業 (整備法第119条第2項第1号イ)	公		
	継続事業 (整備法第119条第2項第1号ハ)	継 ¹	学会事業	
	特定寄附 (整備法第119条第2項第1号ロ)	寄		
5	公益目的財産残額	46,265,723円		
6	公益目的支出の見込額(平均の額)	48,264,518円		
7	実施事業収入の見込額(平均の額)	23,498,500円		
8	(6の額)-(7の額)	24,766,018円		
9	公益目的財産残額が零となる 予定の事業年度の末日	平成31年2月28日		
10	公益目的支出計画の実施期間			
11	9の年度までに合併する予定の有無 (有の場合、予定年月日)	無		

注:左欄に事業番号を記載してください。


(公益目的事業の場合⇒公1、公2・・・、継続事業⇒継1、継2・・・、特定寄附⇒寄1、寄2・・・)

2017年3月23日

監査報告書

一般社団法人 日本土壤肥料学会
会長 間藤 徹 殿

監事 深見元弘 

監事 上沢正志 

私たち監事は、2016年3月1日から2017年2月28日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を開覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は法令又は定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

第2号議案 2017年度事業計画および収支予算案

I. 2017（平成29）年度事業計画

1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥科学雑誌（第88巻第2号～第6号および第89巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (Vol.63, No.2～No.6, Vol.64, No.1の計6冊、A4判) および2017年度仙台大会に際して日本土壌肥科学会講演要旨集（第63集、A4判）を刊行する。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

(1) 「土と肥料」の講演会

2017年4月16日（日）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「肥料技術の来た道行く道」とし、講演者と演題は小林 新氏「肥料技術の現在・過去・未来」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

(2) 2017年度年次大会

2017年9月5日（火）～7日（木）、東北大学青葉山新キャンパスおよび東北大学百周年記念会館（川内萩ホール）において年次大会を開催する。同期間中、一般講演、ポスターセッション、シンポジウムは5日（火）から7日（木）、学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は6日（水）に行う。なお、エクスカージョン（宮城県南部の沿岸地域を予定）を8日（金）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第62回日本土壌肥科学会賞3名、第22回同技術賞2名、第35回同奨励賞4名、第6回同技術奨励賞2名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

また、IUSS 副会長である Prof. Flavio Camargo 氏（ブラジル）を招聘し、特別講演を計画している。

第62回 日本土壌肥科学会賞受賞者

- ・石川 覚：イネのカドミウム吸収機構の解明とカドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」の開発
- ・久保寺秀夫：九州沖縄地域の各種土壌が有する問題点の解析と管理指針の提示
- ・山本洋子：植物細胞におけるアルミニウム障害ならびに耐性機構に関する研究

第22回 日本土壌肥科学会技術賞

- ・原 正之：家畜ふん堆肥の成型技術に関する研究
- ・藤井弘志：気象変動条件下における水稻の生産性向上のための窒素とケイ酸の肥

培管理技術の開発

第 35 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・阿部 進：西アフリカ低地の土壌生成学的研究と水田稲作ポテンシャルの実践的評価
- ・上野大勢：植物の重金属輸送に関する研究
- ・杉原 創：熱帯アフリカにおける養分フローに着目した土壌資源管理に関する研究
- ・和田慎也：葉の老化過程におけるオートファジーを介した葉緑体タンパク質の分解と窒素利用効率に関する研究

第 6 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・岩佐博邦：メタン発酵消化液由来資材の肥料的効果の検証とその施用技術の確立に関する研究
- ・丹羽勝久：大規模畑作地帯における土壌の評価とその活用に関する研究

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・森次真一・石橋英二・山本章吾・沖 和生：水稲栽培におけるアメダスメッシュ気象データを活用した被覆尿素的窒素溶出推定精度
- ・板橋 直：土壌への窒素負荷による河川水質汚濁に対する脆弱地域の区分～霞ヶ浦周辺地域の 9 河川流域での事例～

SSPN Award 受賞者

- ・Atfritedy Limin, Mariko Shimizu, Masayoshi Mano, Keisuke Ono, Akira Miyata, Hideo Wada, Haruhiko Nozaki, Ryusuke Hatano : Manure application has an effect on the carbon budget of a managed grassland in southern Hokkaido, Japan

(3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 19 回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および 2017 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、札幌市内)を主催する。また、第 1 回支部評議員会(6 月上旬 北海道大学)、第 2 回支部評議員会(11 月下旬～12 月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。
- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(6～7 月、岩手県盛岡市)。
- ・関東支部：関東支部神奈川大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/25 日本大学生物資源科学部)。
- ・中部支部：第 77 回中部支部総会、第 96 回支部例会を開催する(3/2 愛知県名古屋市ウインクあいち)。第 78 回中部支部総会、第 97 回支部例会を開催する(10 月～11 月 富山県、日程・場所調整中)。また、第 159 回支部評議員会(3/2 愛知県名古屋市ウインクあいち)、第 160 回支部評議員会(5 月 名古屋市 日程・場所調整中)、第 161 回支部評議員会(10～11 月 富山県 研究会と同時開催 日程・場所調整中)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12/7)および支部役員会(12/8)を開催する(奈良県)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2017 年度支部常議員会、支部総会

並びに若手討論会を開催する（8～9月 佐賀市）。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第63回日本土壌肥料学会賞、第23回同技術賞、第36回同奨励賞、第7回同技術奨励賞、第7回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・エチオピア土壌学会（3月 アフリカ土壌学会共催、エチオピア・アジスアベバ）に代表者を派遣する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会（EGU：4/23-28、ウィーン）に代表者を派遣する。
- ・国際都市土壌会議（ロシア・モスクワ）に代表者を派遣する。
- ・第30回環境工学連合講演会（5/23 日本学術会議講堂）を共催する。
- ・日本地球惑星科学連合 2017 年度連合大会（5/21～25 幕張メッセ）のセッション「Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts」を協賛する。
- ・第54回アイソトープ・放射線研究発表会（7/5～7 東京大学弥生講堂）を共催する。
- ・ICOBTE（7/16～20 スイス・チューリッヒ）に代表者を派遣する。
- ・残留性有害物質に関する国際会議 ISPTS2017（9/24～28 名古屋大学東山キャンパス）を後援する。
- ・第61回粘土科学討論会（9/25～27 富山大学）を共催する。
- ・米国土壌学会（11月 アメリカ・タンパ）に代表者を派遣する。
- ・ESAFS（12月 タイ・バンコク）に代表者を派遣する。

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①仙台大会において高校生ポスター発表会を実施する（9/5～7）。②やさしい土の解説テキスト（仮称）の編集および出版を行う。③土壌教育の推進に関する基礎資料のとりまとめを行う。④自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を設置する（場所未定）。⑤教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所未定）。
- ・財政基盤整備委員会：収支バランスのとれた学会運営ならびに大会運営のあり方について検討する。
- ・広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2017に出展する（2017.12）。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。

II. 2017(平成 29)年度収支予算案

一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部の経常収益

前年度予算額よりも 208 万円増の 4,941 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ⑤事業収益／大会収入は、懇親会費、協賛金等の雑収入を計上したことにより前年度予算額よりも 420 万円増の 1,060 万円。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ④受取会費は前年度予算額よりも 96 万円減の 2,518 万円。正会員受取会費は 50 万円減。
- ⑤事業収益／欧文誌投稿料・別刷代等は、投稿数、ページ数の減少により 188 万円減の 396 万円。

2. 経常増減の部の経常費用

前年度予算額よりも 273 万円増の 5,729 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ①事業費／年次大会開催費は、懇親会費等を計上したことにより前年度予算額よりも 420 万円増の 1,055 万円。
- 同／国際交流費は、IUSS、ESAFS 派遣等の対応により 177 万円増の 257 万円。
- 業務委託費は 62 万円増。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ①事業費／会誌刊行費は 117 万円減。
- 同／欧文誌刊行費は 75 万円減。
- 同／各種委員会等運営費は 39 万円減。
- 同／女性・若手支援費は 56 万円減。
- 同／国際シンポジウム費は 68 万円減。
- 臨時雇い賃金は計 50 万円減。
- リース料は 40 万円減。

これらのことから、当期経常増減額は 788 万円の赤字が見込まれる。前年度経常増減額－722 万円に比べて赤字が増えたのは、経常収益④受取会費、⑤事業収益／欧文誌投稿料・別刷代等の減少が大きいこと、また小崎 隆 前会長が次期 IUSS 会長に選出されたことにもなう国際交流支援の増加による影響もある。後者については、当学会の活動を世界に発信し、国際的にいっそう飛躍する機会であるのご理解頂きたい。

指定正味財産増減の部

なし。

以上の結果から、正味財産期末残高は 788 万円減の 1 億 3,836 万円が見込まれる。

(一社) 日本土壌肥料学会2017年度収支予算書(損益ベース)(案)

2017(平成29)年3月1日から2018(平成30)年2月28日まで

1/2

(単位:円)

科 目	実施事業等会計	法人会計	予算額	前年度予算額	備考
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 基本財産運用益	0	1,500	1,500	1,500	
基本財産受取利息	(0)	(1,500)	(1,500)	(1,500)	
② 特定資産運用益	0	18,000	18,000	18,000	
特定資産受取利息	(0)	(18,000)	(18,000)		
③ 受取入会金	0	510,000	510,000	540,000	
受取入会金	(0)	(510,000)	(510,000)	(540,000)	3,000円×170人
④ 受取会費	0	25,180,000	25,180,000	26,140,000	
正会員受取会費	(0)	(17,000,000)	(17,000,000)	(17,500,000)	10,000円×1,700人
学生会員受取会費	(0)	(1,680,000)	(1,680,000)	(1,680,000)	6,000円×280人
団体会員受取会費	(0)	(2,100,000)	(2,100,000)	(2,180,000)	20,000円×105団体
欧文誌購読会費	(0)	(2,100,000)	(2,100,000)	(2,280,000)	6,000円×350人
賛助会員受取会費	(0)	(2,300,000)	(2,300,000)	(2,500,000)	50,000円×46口
⑤ 事業収益	23,388,500		23,388,500	20,562,500	
会誌刊行等事業収益	(11,420,000)		(11,420,000)	(13,362,000)	
会誌委託販売	(1,200,000)		(1,200,000)	(1,200,000)	
会誌投稿料・別刷り代等	(2,700,000)		(2,700,000)	(2,700,000)	88(2)~89(1)
会誌バックナンバー等	(10,000)		(10,000)	(10,000)	
欧文誌委託販売	(3,500,000)		(3,500,000)	(3,500,000)	Talor & Francis
欧文誌投稿料・別刷代等	(3,960,000)		(3,960,000)	(5,842,000)	63(2)~64(1)
欧文誌バックナンバー等	(0)		(0)	(10,000)	
講演要旨集(大会時外)	(0)		(0)	(0)	バックナンバー等
その他印刷物	(0)		(0)	(0)	
出版物印税	(50,000)		(50,000)	(100,000)	博友社印税
大会収入	(10,598,500)		(10,598,500)	(6,400,500)	仙台大会運営委予算案に基づく
参加料	(3,275,000)		(3,275,000)	(3,245,000)	
発表料	(550,000)		(550,000)	(520,000)	
講演要旨集(大会時)	(2,600,000)		(2,600,000)	(2,600,000)	
懇親会費	(2,260,000)		(2,260,000)	(0)	
雑収入	(1,913,500)		(1,913,500)	(35,500)	
広告料	(770,000)		(770,000)	(800,000)	
支部大会収入	(600,000)		(600,000)	(0)	
⑥ 受取補助金等	0	0	0	0	
受取補助金	(0)	(0)	(0)	(0)	
⑦ 受取助成金	0	0	0	0	
受取助成金	(0)	(0)	(0)	(0)	
⑧ 受取寄付金	110,000	0	110,000	0	
受取寄付金	(110,000)	(0)	(110,000)	(0)	
受取寄附金振替額	(0)	(0)	(0)	(0)	
⑧ 受託収入	0	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	(0)	(0)	
⑨ 雑収入	0	220,000	220,000	90,000	
受取利息	(0)	(20,000)	(20,000)	(20,000)	
雑収益	(0)	(200,000)	(200,000)	(70,000)	情報システム研究機構還元金、他
支部雑収入	(0)	(0)	(0)	(0)	
経常収益計	23,498,500	25,911,500	49,410,000	47,334,000	
(2) 経常費用					
① 事業費	48,264,518		48,264,518	45,714,142	
年次大会開催費	10,548,490		10,548,490	6,347,360	仙台大会運営委予算案に基づく
会場費	(464,310)		(464,310)	(1,170,000)	
人件費	(720,000)		(720,000)	(720,000)	学生アルバイト
運営費	(590,000)		(590,000)	(599,600)	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(2,501,928)		(2,501,928)	(2,337,120)	受付Web等
大会関係印刷費	(2,974,752)		(2,974,752)	(1,520,640)	講演要旨集
懇親会費	(2,700,000)		(2,700,000)	(0)	
その他雑費	(597,500)		(597,500)		
会誌刊行費	10,863,610		10,863,610	12,030,000	8 ⁹ (2)~8 ⁹ (1)
印刷製本費	(8,642,410)		(8,642,410)	(10,000,000)	
通信運搬費	(1,471,200)		(1,471,200)	(2,000,000)	
編集費	(750,000)		(750,000)	(30,000)	
欧文誌刊行費	5,624,500		5,624,500	6,374,250	3 ⁴ 6 ⁴ (2)~6 ⁴ (1)
印刷製本費	(4,224,500)		(4,224,500)	(4,874,250)	
通信運搬費	(0)		(0)	(0)	
編集費	(1,400,000)		(1,400,000)	(1,500,000)	
各種委員会等運営費	1,652,280		1,652,280	2,044,780	
土壌教育委員会	1,100,000		1,100,000		土壌教育委員会活動
広報委員会	552,280		552,280		広報活動(エコプロ出展他)
学術交流費	50,000		50,000	60,000	土と肥料の講演会 他
国際交流費	2,570,000		2,570,000	800,000	IUSS対応、ESAFS派遣等
事業関係通信運搬費	150,000		150,000	200,000	
事業関係雑費	35,000		35,000	35,000	
事業関係業務委託費	20,000		20,000	0	
農学会等分担金等	270,000		270,000	270,000	日本農学会分担金、日本学術協力財団
HP管理費	156,600		156,600	189,600	HP更新、メルマガ運用
顕彰費	740,000		740,000	710,000	学会賞他

次頁に続く

科 目	実施事業等会計	法人会計	予算額	前年度予算額	備考
女性・若手支援費	1,040,000		1,040,000	1,600,000	奨励賞、渡航支援 他
国際シンポジウム費	0		0	675,000	
国際土壌年事業費	320,000		320,000	160,000	
支部大会開催費	1,500,000		1,500,000	1,500,000	
役員報酬	1,680,000		1,680,000	1,680,000	
給料	2,340,000		2,340,000	2,160,000	
法定福利費	54,000		54,000	60,000	労働保険
福利厚生費	360,000		360,000	360,000	健保
臨時雇い賃金	0		0	250,000	
会議費	22,000		22,000	28,000	
旅費・交通費	2,400,000		2,400,000	2,400,000	
通信運搬費	720,000		720,000	800,000	
什器備品費	15,000		15,000	15,000	
消耗品費	90,000		90,000	90,000	
印刷製本費	320,000		320,000	240,000	
事務所賃料等	1,872,000		1,872,000	1,872,000	家賃等12ヶ月分
光熱水料費	125,000		125,000	150,000	
リース料	280,000		280,000	560,000	
業務委託費	2,322,000		2,322,000	1,950,000	会員管理、会計業務
退職給付費用	124,038		124,038	103,152	
② 管理費		9,022,692	9,022,692	8,838,768	
役員報酬		720,000	720,000	720,000	
給料		1,560,000	1,560,000	1,440,000	
法定福利費		36,000	36,000	40,000	労働保険
福利厚生費		240,000	240,000	240,000	健保
臨時雇い賃金		0	0	250,000	
会議費		88,000	88,000	112,000	
総会		(48,000)	(48,000)	(48,000)	山上会館
理事会		(8,000)	(8,000)	(16,000)	
部門長会		(4,000)	(4,000)	(8,000)	
選考委員会		(4,000)	(4,000)	(8,000)	
選挙管理委員会		(0)	(0)	(8,000)	
その他会議費		(24,000)	(24,000)	(24,000)	
旅費・交通費		1,600,000	1,600,000	1,600,000	
通信運搬費		180,000	180,000	200,000	
什器備品費		35,000	35,000	35,000	
消耗品費		210,000	210,000	210,000	
印刷製本費		80,000	80,000	60,000	
事務所賃料等		1,248,000	1,248,000	1,248,000	家賃等12ヶ月分
光熱水料費		125,000	125,000	150,000	
リース料		120,000	120,000	240,000	PC、FAX等
保険料		50,000	50,000	25,000	
租税公課		1,000,000	1,000,000	800,000	消費税、法人税、他
業務委託費		1,548,000	1,548,000	1,300,000	会員管理、会計業務
雑費		100,000	100,000	100,000	
退職給付費用		82,692	82,692	68,768	
経常費用計	48,264,518	9,022,692	57,287,210	54,552,910	
当期経常増減額	△ 24,766,018	16,888,808	△ 7,877,210	△ 7,218,910	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 24,766,018	16,888,808	△ 7,877,210	△ 7,218,910	
一般正味財産期首残高	△ 40,055,512	186,295,378	146,239,866	124,501,783	
一般正味財産期末残高	△ 64,821,530	203,184,186	138,362,656	117,282,873	
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	
III 正味財産期末残高	△ 64,821,530	203,184,186	138,362,656	117,282,873	

第3号議案 役員の新任・退任の承認

役員の新任（2017年度通常総会～2019年度通常総会）

会長	犬伏和之*
副会長	波多野隆介*・木村 武
理事	原田靖生・安西徹郎 渡邊浩一郎・相崎万裕美 須藤重人・竹本 稔 國頭 恭・青野俊裕 矢内純太・大塚重人・松浦里江 木村秀也 高田裕介・高野順平 菅野均志
監事	深見元弘*・上沢正志* (*選挙により当選)

役員の退任（2015年度通常総会～2017年度通常総会）

会長	間藤 徹
副会長	犬伏和之・木村 武
常務理事	原田靖生・安西徹郎
会計担当理事	渡邊浩一郎・相崎万裕美
会誌担当理事	須藤重人
欧文誌担当理事	中西啓仁・國頭 恭
渉外担当理事	矢内純太・大塚重人・白戸康人
部門長会議担当理事	徳田進一
広報担当理事	和崎 淳・高田裕介
教育担当理事	菅野均志
監事	上沢正志・深見元弘

第4号議案 名誉会員の推薦

三枝正彦会員は、東北大学農学部土壌立地学講座、同大学複合生態フィールド教育センターおよび豊橋技術科学大学先端農業バイオリサーチセンターにおいて、51年間の長きにわたり土壌学に関する研究に精励し、優れた研究業績をあげてきた。三枝会員は、高等植物のグルタミン酸脱水素酵素の発見、東北地域水田土壌の粘土鉱物分布図の作成、寒冷地水稲の省力安定多収技術の確立、飼料作物における省力・施肥技術の開発、肥効調節型肥料を用いた育苗箱全量施肥法・接触施肥法の開発、非アロフェン質黒ボク土の分布図の作成と起源の解明、施設園芸における適正施肥技術の開発等、フィールドを中心とする多岐にわたる研究を展開し、その研究業績は原著論文 268 編、総説・解説等 52 編、著書 24 冊、国際学会発表 98 に及ぶ。

委員等については、2002 年から 2005 年まで International Union of Soil Science 運営委員・日本代表、2003 年から 2005 年まで East and Southeast Asia Federation of Soil Science 運営委員・日本代表、2003 年から 2005 年まで第 19 期日本学術会議会員、2000 年から 2001 年まで文部科学省科学研究費補助金審査委員、2003 年から 2009 年まで農林水産技術会議指定試験評価委員等を務めた。また、2003 年より日本農学アカデミー会員、2003 年より農林水産省有害物質プロジェクト評価委員、2006 年より第 20-23 期日本学術会議連携会員、2016 年より農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究課題評価分科会委員等を務めている。

日本土壌肥料学会においては 1991 年から 2011 年まで評議員、1996 年から 1999 年まで東北支部長、2000 年から 2002 年まで副会長、2002 年から 2004 年まで会長を務めた。その間、定期大会開催時期の変更と「土と肥料」の講演会の新設、日本土壌肥料学雑誌論文賞および SSPN Award の新設を行うなど、本会の発展に大きく貢献した。

以上の功績により、2016 年度第 7 回理事会において、定款第 5 条 2 (4) に基づき三枝正彦会員を名誉会員に推薦することとしたので、審議をお願いしたい。

参考

2017 年度役員、代議員等一覽

役員（20名）

会長	犬伏和之
副会長	波多野隆介・木村 武
常務理事（常勤）	原田靖生
常務理事	安西徹郎
会計担当理事	渡邊浩一郎・相崎万裕美
会誌担当理事	須藤重人・竹本 稔
欧文誌担当理事	國頭 恭・青野俊裕
渉外担当理事	矢内純太・大塚重人・松浦里江
部門長会議担当理事	木村秀也
広報担当理事	高田裕介・高野順平
教育担当理事	菅野均志
監事	上沢正志・深見元弘

代議員（100名）

（北海道支部 定員 10名）

岡 紀邦、加藤 淳、澤本卓治、志賀弘行、谷 昌幸、長尾明宣、中津智史、中辻敏朗
波多野隆介、渡部敏裕

（東北支部 定員 11名）

伊藤豊彰、金田吉弘、齋藤雅典、佐藤 孝、信濃卓郎、俵谷圭太郎、高橋 正、中川進平
南條正巳、西田瑞彦、藤井弘志

（関東支部 定員 41名）

秋山博子、阿部 薫、荒尾知人、在原克之、江口定夫、太田寛行、大谷 卓、大山卓爾、加藤直人
加藤英孝、金澤健二、金子文宜、鎌田 淳、上山紀代美、唐澤敏彦、川崎 晃、川東正幸
久保寺秀夫、小崎 隆、後藤逸男、坂本一憲、新町文絵、隅田裕明、妹尾啓史、高橋令二
田村憲司、豊田剛己、長坂克彦、野口 章、橋本知義、長谷川功、原田久富美、樋口恭子
平館俊太郎、藤田 裕、藤原俊六郎、藤原 徹、八木一行、山口紀子、横山 正、吉川省子

（中部支部 定員 11名）

浅川 晋、磯井俊行、糟谷真宏、小山博之、鮫島玲子、水野隆文、棚橋寿彦、堂本晶子、一家崇志
村瀬 潤、渡邊 彰

（関西支部 定員 17名）

岩崎貢三、上野秀人、内山知二、遠藤常嘉、櫻井克年、実岡寛文、真常仁志、中尾 淳、野村美加
藤間 充、舟川晋也、前田守弘、馬 建鋒、増永二之、望月秀俊、横山和平、渡辺和彦

（九州支部 定員 10名）

赤木 功、荒川祐介、古賀伸久、佐伯雄一、境 雅夫、染谷 孝、樗木直也、宮丸直子、山川武夫
和田信一郎

部門長

(第1部門) 小林政広 (第2部門) 藤嶽暢英 (第3部門) 豊田剛己
(第4部門) 小山博之 (第5部門) 舟川晋也 (第6部門) 新良力也
(第7部門) 西田瑞彦 (第8部門) 前田守弘 (第9部門) 福田直

支部長

北海道 波多野隆介 東北 藤井弘志 関東 長谷川功
中部 小川直人 関西 矢内純太 九州 境雅夫

会誌編集委員会

委員長 樋口恭子

常任編集委員 宮丸直子、大倉利明、駒田充生、佐々木由佳、笛木伸彦、井原啓貴
馬場光久、飯村康夫、鈴木雄二、高橋能彦、佐野修司、森下智陽

地域担当編集委員

北海道 長尾明宣、谷昌幸、中村卓司 東北 関矢博幸、金田吉弘、中川進平
関東 大脇良成、八島未和、山田和義 中部 原正之、梅本英之、磯井俊行
関西 牧浩之、矢内純太、大家理哉 九州 長友誠、境雅夫、荒川祐介

欧文誌編集委員会

委員長 妹尾啓史

国内編集委員 波多野隆介、間藤徹、森田明雄、小林政広、吉田修一郎、橋本洋平
平舘俊太郎、藤嶽暢英、眞家永光、青野俊裕、齋藤明広、齋藤勝晴、杉原創、豊田剛己
西澤智康、森本晶、小山博之、大竹憲邦、鈴木雄二、小林優、石川覚、中西啓仁
渡部敏裕、小原洋、久保寺秀夫、新良力也、松本真悟、唐澤敏彦、西田瑞彦、高橋智紀
中辻敏朗、小野賢二、古賀伸久、白戸康人、武田晃、前田守弘、高階史章、藤間充
海外編集委員 Reiner Wassmann、Randy A. Dahlgren、Xiaoyuan Yan、Jae E. Yang
Zucong Cai、Ping He、Yong-Guan Zhu、Sanjib Kumar Panda、Miftahudin
Jerzy Lipiec、Audthasit Wongmaneroj、Bentio Heru Purwanto、Georg Guggenberger

土壌教育委員会

委員長 平井英明

副委員長 田村憲司 事務局長 赤羽幾子 顧問 福田直

委員 村野宏達、木村武、三枝俊哉、佐々木由佳、森圭子、小川直人、藤間充
森裕樹

2017年度年次大会（仙台）運営委員会

運営委員長：南條正巳

事務局長：石田宏幸、会計：宮尾光恵

運営委員：藤井弘志、泉正範、伊藤豊彰、菅野圭一、菅野均志、小島創一、齋藤雅典
田島亮介、早川俊彦、前忠彦、牧野周、南澤究、山崎慎一、山谷知行、木村和彦
三枝正彦、千葉克己、阿部倫則、佐々木次郎、島秀之、瀧典明